

指宿市農業委員会「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」

令和5年3月24日
指宿市農業委員会

第1 基本的な考え方

農業委員会等に関する法律（昭和26年法律第88号。以下「法」という。）の改正法が平成28年4月1日に施行され、農業委員会においては「農地等の利用の最適化の推進」が最も重要な必須事務として、明確に位置付けられた。

本市では、南薩畑地帯総合土地改良事業等の基盤整備事業や池田湖を水源とする南薩畑地かんがい事業などの整備がされた畑作地帯を中心に、温暖な気候や豊富な水資源を活かした多種多様な農業生産が展開されており、担い手を中心に南薩の食料供給基地の形成を目指しながら、高収益、高付加価値作物の導入が進められている。

このような生産体制の基礎となる優良農地の確保を図るには、地域の実態に応じた取り組みを推進し、それに向けた対策の強化を図ることが求められており、担い手への農地利用の集積・集約化を図るため、「地域計画」（農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律案（令和4年法律第56号）による改正後の農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号。以下「改正基盤法」という。）第19条第1項の規定に基づき、市町村が、農業者等の協議の結果を踏まえ、農業の将来の在り方や農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標として農業を担う者ごとに利用する農用地等を表示した地図などを明確化し、公表したものをいう。）に基づいて農地中間管理事業を活用した利用調整に取り組んでいく必要がある。

一方、基盤整備未実施の農地においては狭小で水利用環境のない農地も多く、遊休農地の発生が懸念されていることから、その発生防止・解消に努めていく必要がある。

以上のような観点から、地域の強みを活かしながら、活力ある農業・農村を築くため、法第7条第1項に基づき、農業委員と農地利用最適化推進委員（以下「推進委員」という。）が連携し、担当地区ごとの活動を通じて「農地利用の最適化」が一体的に進んでいくよう、指宿市農業委員会の指針として、具体的な目標と推進方法、目標の達成状況に対する評価方法等を以下のとおり定める。

なお、この指針は、改正基盤法第5条第1項に規定する鹿児島県の農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針及び改正基盤法第6条第1項に規定する指宿市の農業経営基盤の強化の促進に関する基本構造を踏まえた農業委員会の長期的な目標として10年後に目指す農地の状況等を示すものであり、農業委員及び推進委員の改選期である3年ごとに検証・見直しを行う。

また、単年度の具体的な活動については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」（令和4年2月2日付け3経営第2584号農林水産省経営局長通知、令和4年2

月 25 日付け 3 経営第 2816 号農林水産省経営局農地政策課長通知) に基づく「最適化活動の目標の設定等」のとおりとする。

第 2 具体的な目標, 推進方法及び評価方法

1. 遊休農地の発生防止・解消について

(1) 遊休農地の解消目標

	管内の農地面積(A)	遊休農地面積(B)	遊休農地の割合(B/A)
現 状 (令和 5 年 3 月)	3, 290ha	105ha	3. 2%
3 年後の目標 (令和 8 年 3 月)	3, 260ha	82ha	2. 5%
目 標 (令和 10 年 3 月)	3, 230ha	48ha	1. 5%

注 「管内の農地面積」は鹿児島県農林水産統計年報における耕地面積と遊休農地面積の合計

(2) 遊休農地の発生防止・解消の具体的な推進方法

① 農地の利用状況調査と利用意向調査の実施について

- 農業委員と推進員の担当制による利用状況調査と利用意向調査の実施について協議・検討し, 調査の徹底を図る。それぞれの調査時期については, 「農地法の運用について」(平成 21 年 12 月 11 日付け 21 経営第 4530 号・21 農振第 1598 号農林水産省経営局長・農村振興局長連名通知) に基づき実施する。

なお, 従来から農地パトロールの中で行っていた, 違反転用の発生防止・早期発見等, 農地の適正な利用の確認に関する現場活動については, 利用状況調査の時期にかかわらず, 日常的に実施する。

- 利用意向調査の結果を踏まえ, 農地法第 34 条に基づく農地利用関係の調整を行う。
- 利用状況調査と利用意向調査の結果は, 速やかに「農業委員会サポートシステム」に反映し, 農地台帳の正確な記録の確保と公表の迅速化を図る。

② 農地中間管理機構との連携について

- 利用意向調査の結果を受け, 農家の意向を踏まえた農地中間管理機構への貸付手続きを行う。

③ 非農地判断について

- 利用状況調査によって, 再生利用が困難と区分された農地については, 現況に応じて速やかに「非農地判断」を行い, 守るべき農地を明確化する。

(2) 遊休農地の発生防止・解消の評価方法

遊休農地の発生防止・解消の進捗状況は、遊休農地の割合により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

2. 担い手への農地利用の集積・集約化について

(1) 担い手への農地利用集積目標

	管内の農地面積(A)	集積面積(B)	集積率(B/A)
現 状 (令和5年3月)	3,290ha	1,321ha	40.2%
3年後の目標 (令和8年3月)	3,260ha	1,354ha	60.0%
目 標 (令和10年3月)	3,230ha	1,992ha	80.0%

注 「管内の農地面積」は鹿児島県農林水産統計年報における耕地面積と遊休農地面積の合計

(2) 担い手への農地利用の集積・集約化に向けた具体的な推進方法

① 「地域計画」の作成・見直しについて

- 農業委員会として、地域ごとに人と農地の問題を解決するため、10年後の農業の在り方と農地利用の将来像を描く「地域計画」の作成と見直しに積極的に取り組む。

② 農地中間管理機構との連携について

- 農業委員会は、市、農地中間管理機構、農協等の関係機関と連携し、(ア)農地中間管理機構に貸付を希望する復元可能な遊休農地、(イ)経営の廃止・縮小を希望する高齢農家等の農地、(ウ)利用権の設定期間が満了する農地等について把握し、「地域計画」の作成・見直し、農地中間管理事業の活用を検討するなど、農地の出し手と受け手の意向を踏まえたマッチングを行う。

③ 農地の利用調整と利用権設定について

- 管内の地域の農地利用の状況を踏まえ、担い手への農地利用の集積が進んでいる地域では、担い手の意向を踏まえた農地の集約化のための利用調整・交換と利用権の再設定を推進する。また、中山間地域の受け手が少ない又は受け手がない地域では、集落営農の組織化・法人化、新規参入の受け入れを推進するなど、地域に応じた取り組みを推進する。

④ 農地の所有者等を確知することができない農地の取り扱い

- 農地の所有者を確知することができない農地については、公示手続きを経て農地中間管理機構を通じて利用権設定ができる制度を活用し、農地の有効利用に努める。

(3) 担い手への農地利用の集積・集約化の評価方法

担い手への農地利用の集積・集約化の進捗状況は、農地の集積率により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

3. 新規参入の促進について

(1) 新規参入の促進目標

	新規参入者数 (新規参入者取得面積)
現 状 (令和5年3月)	8人 (5.5ha)
3年後の目標 (令和8年3月)	8人 (6.0ha)
目 標 (令和10年3月)	8人 (6.0ha)

注 新規参入については、現状の担い手農家等の数や遊休農地の発生状況等を考慮しながら、必要な経営体を試算した。

(2) 新規参入の促進に向けた具体的な推進方法

① 関係機関との連携について

- 鹿児島県、農地中間管理機構、市、農協等の関係機関と連携し、農地のあっせん等を推進する。

② 企業参入の推進について

- 担い手が不足している地域では、企業の農業参入も地域の担い確保の有効な手段であることから、農地中間管理機構も活用して、積極的に企業参入の推進を図る。

③ 農業委員会のフォローアップ活動について

- 農業委員及び推進委員は、新規参入者（個人、法人）の地域の受入条件の整備を図るとともに、参入後のフォローアップに努める。

(3) 新規参入の促進の評価方法

新規参入の促進の進捗状況は、新規参入者（個人，法人）の数により評価する。

単年度の評価については、「農業委員会による最適化活動の推進等について」に基づく「農業委員会の農地利用の最適化の推進の状況その他事務の実施状況の公表」のとおりとする。

第3 「地域計画」の目標を達成するための役割

指宿市において作成された「地域計画」に基づき、農地を効率的かつ総合的に利用していくため、指宿市農業委員会は次の役割を担っていく。

- ・日常的な農地の見守りによる農地の適正利用の確認
- ・農家への声掛け等による意向把握
- ・「地域計画」で位置付けられた担い手への農地の利用調整やマッチング
- ・農地中間管理事業の活用の働きかけ
- ・「地域計画」の定期的な見直しへの協力